

大阪市営地下鉄「民営化」の正体

写真は朝日新聞 12 月 21 日朝刊「万博へ 大阪メトロ走り出す」。ちと待つてほしい。半年間の万博でなく、1 年前に誘致をめざす IR、カジノのためだろう。記事見出しを「カジノへ」と書き直してほしい。記事を抜粋して紹介しよう。

大阪メトロは 20 日、2025 年に大阪万博が開催される人工島「夢洲」に開業する新駅の構想を発表した。高さ 250 超のタワービルが一体となった施設で、総工費は 1 千億円を超える見込みだという。カジノを含む統合型リゾート (IR) の誘致を前提として、24 年度中の開業をめざす。タワービルは地下 1 階、地上 55 階建て程度を想定。商業施設やエンターテインメント関連の施設、オフィス、ホテルなどが入る予定だ。最上階には展望台も備える。夢洲までの地下トンネルには LED ライトを組み込むなどし、「未来につながるような空間にする」(河井英明社長)。大阪メトロによる高層ビルの建設は、旧市営地下鉄時代を通じて初めてだという。夢洲をめぐるのは、大阪府・市が IR 誘致を進めている。中央線についてはコスモスクエア駅から夢洲の新駅まで約 3 延伸する計画で、大阪メトロの構想はそれに沿ったものだ。



大阪メトロは 20 日、御堂筋線と中央線の計 15 駅を、2024 年度までに順次、大改装する計画も発表した。300 億円を投じ、各駅を地域の特色に合うイメージにつくり変える。対象となる駅は、御堂筋線の 9 駅と中央線の 6 駅。たとえば、新大阪駅のコンセプトは「近未来の大阪」、淀屋橋駅は「歴史」、心斎橋駅は「テキスタイル」、動物園前駅は「アニマル」、弁天町駅は「弁財天」などと設定した。

大阪メトロは 20 日、御堂筋線と中央線の計 15 駅を、2024 年度までに順次、大改装する計画も発表した。300 億円を投じ、各駅を地域の特色に合うイメージにつくり変える。対象となる駅は、御堂筋線の 9 駅と中央線の 6 駅。たとえば、新大阪駅のコンセプトは「近未来の大阪」、淀屋橋駅は「歴史」、心斎橋駅は「テキスタイル」、動物園前駅は「アニマル」、弁天町駅は「弁財天」などと設定した。

大阪市営地下鉄は、関一市長により計画され長い歴史がある。この 4 月に「民営化」され、大阪メトロとして新たなスタートを切った。その新会社が発表した夢洲駅などの構想を、吉村大阪市長は絶賛しているという。大阪の地下鉄は市民の足であり、市民の財産でもある。大阪メトロは、こんな陳腐で無謀な構想により破綻するのではないか。地下鉄「民営化」の正体、ここにありなのか。PR 映像も見たが、腹が立ってきた。

大阪メトロが発表した構想のなかで、心斎橋駅改装後の写真に注目が集まっている。心斎橋駅の天井には、華麗なシャンデリアが輝き、なんとも言えない風格を感じさせる。改装写真はケバケバしいばかりで、落ち着きも感じられない。講義や講演する時、御堂筋とその下の地下鉄・心斎橋駅の写真を見てもらい、古き良き時代の大阪の「都市格」を説明する。大阪メトロの「メトメト構想」に断固抗議する。

(2018 年 12 月 25 日)